

【様式①】令和2年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 島小学校

校長名 宇留野 博美



市の重点項目	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
全職員や地域コミュニティとの協働による積極的な指導体制を確立し、「チームとしての学校」を実現する	<ul style="list-style-type: none"> <li>決していじめを見逃さない、許さない全職員の組織的で迅速な取組を、家庭・地域との連携を深めて推進する。</li> <li>保護者、地域の関係諸機関と連携し、児童が自主的に判断、行動し、積極的に自己を生かしていくことができる自己指導能力の育成を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ対策監を中心とした組織的な対応を行い、迅速に解決するように努めた。いじめ対策推進会議で、地域代表の方の意見を伺い組織的な対応ができた。</li> <li>コロナ禍で制限はあったが学校運営協議会、支援推進委員会を通し、行事、学習支援、見守り隊等に参画・協力していただき、児童の安心・安全、豊かな体験に結びつけられた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ未然防止に当たり、三者の連携が取りやすい政策を進めていきたい。</li> <li>コロナ禍の対応には、限界があるが、学校や地域の協力で感謝している。</li> <li>コロナの影響を受けた今年度の一年を体験し、感染対策も見えてきたこともあり、来年度は形を工夫して考えていければよいと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会といじめ対策推進会議は、より連携を強め、家庭と地域の連携を深めるためにも「学校いじめ防止基本方針」は、第一回学校運営協議会の際に周知し、理解・協力を得る必要がある。</li> </ul>
学習指導要領の趣旨を十分に踏まえた社会に開かれた教育課程を編成・実施・評価し、教育効果の最大化を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>これからの社会を生き抜く児童に必要な資質・能力を明らかにし、教育課程に明確に位置付け、計画的に育成する。</li> <li>「家庭学習のススメ」「家事分担のススメ」等、家庭、地域と連携・協働しながら教育効果の最大化を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容の確実な定着や児童が意欲的に授業に取り組めるよう取り組んだ。児童自ら掃除時間の効率化について話し合い掃除の取り組みを図ることができた。</li> <li>地域や家庭との連携を図り、「家事分担」や「家庭学習」の取り組みを行ったが、学校と全校児童、保護者との連携については課題が残る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校・行政・地域に対する保護者の希望や要望が多い。やってもらえることが当たり前になってきている感があり、自身(家庭内)の努力不足を感じる。</li> <li>意識づけにはイベントやキャンペーンを行うのが効果的だが、一時的なものにならないよう継続性が必要。また、様々な家庭もあるので強制的にならないような工夫が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習規律を大切にし、児童が見通しを持って意欲的に取り組める授業を様々な領域・教科で行う。</li> <li>今後「学びの共同体」を含め、学び合う授業改善を推進する。</li> </ul>
幼保小連携や小中一貫の考えのもと、ソーシャルキャピタルを活用した学校づくりを推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の健全な発達、安全な生活を創るため、保護者、PTA、子ども見守り隊、学校支援推進委員、学校ボランティア等の社会・地域における信頼関係や結びつきを大切にされた学校運営を進める。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつ運動の取り組みにより、全体に、意識は高まってきているが、子ども見守り隊の方や地域の方への感謝の気持ちをあいさつで伝えるなどの、意識・気持ちはまだ弱い。</li> <li>小中一貫の考えのもと、中学校生徒指導と連携を図り、小学校で身に付ける学習や生活規律の大切さについて指導に来てもらい、中学入学へつながるようにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍の見守り隊への登下校の見守りに感謝している。</li> <li>学校メールや下校予定表などと一緒に学校通信で学校の様子や行事など発信してもらえることがありがたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の方に見守られ支えられて、安全な登下校や学校生活でも支援していただいていること等、感謝の気持ちを忘れないような指導を行い、登下校のあいさつだけでなく、日常のあいさつ、家庭や地域でのあいさつにも広げていく。</li> </ul>
教育環境と学校財務環境を整備・管理し、有効に運用する	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT活用のメリットと、具体的な取り組みを明確にし、効果的に活用する。</li> <li>学校施設の現状や課題を調査・分析し、計画的・効果的な整備に取り組みと共に、課題解決を明確にした学校配分予算等の執行を行う</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校児童へのタブレット端末貸与があったためオンライン授業等、職員も児童も積極的にICT活用を行った。また、学校アンケートや学校からの連絡をWebでの配信に変え、効果的に活用することができた。</li> <li>学校施設の現状や課題について学校運営協議会が中心となり、調査・分析していただき、計画的・効果的な整備に取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育館の空調設備が計画通り行われた。</li> <li>各自一台のタブレット端末の貸出でネットワークが促進されたが家庭内での対応が追いつかず苦労したと聞いている。</li> <li>CSで市長及び市教委への要望が、地道な活動とエビデンスで結果が出せたのがよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン授業の充実を図るため、職員が効果的に活用できるように研修する。</li> <li>月一回の安全点検の確実な実施、職員作業による環境整備に努める。</li> </ul>
災害や事故等、多種多様な非常事態に対する安全性の確保をする	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症予防対策の新しい学校生活様式の徹底を図る。</li> <li>食の安全、熱中症対策、交通安全、自然災害時等の未然防止について家庭、地域との連携を密にして取り組むと共に、緊急時の教職員の共通理解、共通行動を徹底する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ感染防止の対策をその都度図り、地域の方や保護者の協力を得て対応することができた。</li> <li>学校安全(アレルギー対応のためのエビペン講習、熱中症対策のための傘さし登校、交通安全指導、不審者の侵入防止のための対策)のために職員全体で「命を守る」指導を共通理解、共通行動を図るよう徹底した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会・社協・まちづくり・PTAなどは、感染症予防対策で追われたが、地域の迅速でかつ手厚い対応(支援物資含む)に感謝している。</li> <li>信号機の設置(地域力)をはじめ、交通安全協会がコロナ禍でも1/2月以上の街頭活動を続けることができた。</li> <li>自治会防災訓練は、中止となったが、自主防災組織はコロナ禍の避難所訓練や、備蓄資材の拡充、そして講習・研修を積み上げている。島小においてもコロナ禍に特化した避難所計画を作成していただいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA・見守り隊・交通安全協会と学校とがさらに連携を図り、登下校指導や地域防災や引き渡し訓練などを行う。</li> </ul>